

1 多様なアプローチ（きっかけづくり）による里地里山の再評価と協働による取組の進展

②シカ（ヤマビル）、イノシシ、サルなどの被害問題を契機に、農地・林地の荒廃防止、里地里山保全整備の取り組みを進めた例

神奈川：シカ・ヤマビル対策としての里山整備

秦野市の丹沢山麓の集落では、鳥獣・ヤマビル被害に悩まされていた。かつて、この地域では、葉タバコの生産が盛んで、堆肥利用と乾燥のための熱源として、落ち葉と薪が使用されていた。この当時の里山は、明るく獣害は少なく、ヤマビル被害はなかったことから、草刈・落ち葉かきなどの里山整備活動が開始された。

初動は、秦野市役所の里山整備研修としてスタートしたが、同時に、ヤマビルへの効果が明確になるにつれ、集落活動として実施されるようになった。また堆肥の活用や薪の利用が進み、新たな里山の価値が確認された。



田畑に降りて農作物を荒らすシカ



ヤマビル



雑木林の手入れ



落ち葉かき